

森・盛・オホーツク

林野庁 北海道森林管理局
常呂川森林ふれあい推進センター

秋は忙しい?!

「収穫の秋」「食欲の秋」「読書の秋」など、秋にまつわる表現はたくさんありますが、当センターに当てはめるとしたら「多忙の秋」でしょうか。

そんな当センターの秋の活動をご紹介します。



▽美岬のヤチダモ

東部森林室との意見交換会



▽自然解説の要点を説明している様子

10月18日（火）、
オホーツク総合振
興局東部森林室と当
センターで、オホー
ツク地域における
「木育」と「森林環
境教育」の連携した
取組みに向けた意見
交換を行いました。

これは、北海道と北海道森林管理局で締結された「北海道の森林づくりに関する覚書」（平成 25 年 6 月 17 日締結）により行っているもので、現地検討を行うとともに活動内容等を情報共有しています。

第 3 回目となる今年は、東部森林室の木育担当者を網走市美岬国有林に迎えて、遊歩道や美岬のヤチダモの巨木を案内しながら、自然解説の要点や当センターの取組み等の紹介と併せて意見交換を行いました。

今後も東部森林室と連携を強化し、森林・林業の役割や木材利用の意義に対する道民の理解と関心を高める取組みを推進していきたいと考えています。

美岬のヤチダモ

- *平成 12 年 4 月「巨樹・巨木百選」に選定
- *幹回り 460cm *樹高 37m *樹齢推定 300 ～ 400 年
- *網走南部森林管理署 106 林班よ小班

自然再生企画運営協議会 10 月 26 日(木)



▽現地検討（樹種転換エリア）

今年度第 1 回目のオホーツクの森「自然再生モデル事業企画運営協議会」を開催し、今年度の活動結果や今後の取組み等について検討しました。

今回は、自然再生の取組みで「ボランティア団体が一堂に会して活動する機会について、どのように設けていくか。」がテーマとなり、「樹種転換エリア」での間伐跡地や「人工林観察エリア」の活用も考慮し、検討していくこととなりました。

また、「森林ふれあいの取組みへの軸足の移行」については、より良い方向性が見いだせるよう、引続き、検討して行くこととなりました。第 2 回目は 3 月頃を予定しており、次年度の活動予定等を検討する予定です。

オホーツクの森森林散策会

10 月 21 日（土）、網走市主催の「オホーツクの森森林散策会」が開催され、当センターから 2 名が参加し自然観察を支援しました。

この催しは網走市が、木を身近に利用することで、木や森の存在を身近に感じ、自然とともに生きることについて学ぶ機会を増やすため、木育の取組みの一環として行っているものです。

当日は、網走市民 12 名の参加があり「オホーツクの森」の展望台から網走湖や能取湖・知床連山を眺望するとともに、植物や動物・土や水などが、相互に関わりを持って成り立っている様子が見られる「古の森」の遊歩道を 1 時間 30 分かけて散策しました。

参加者からは、「紅葉がきれいだった。」や「オホーツクの森について勉強になった。」などの感想がありました。



▽森林散策の様子

森へおいでよ！パネル展

9 月 30 日～10 月 9 日の間、北見市緑のセンターで「森へおいでよ！パネル展」を森林ボランティア「オホーツクの会」との共催で行いました。

この催しは、当センターと「オホーツクの会」のそれぞれの活動や花や動物のパネルと合わせて、会員が作ったクラフトや写真の展示を行いました。

また、10 月 7～9 日の 3 日間は、竹とんぼやマツボックリなどを使用したクラフト作り、緑ヶ丘森林公園での散策会を行ったところ、展示会場に 130 名以上の子どもたちの団体が訪れ大いに賑わいました。

オホーツクの森林づくり 9 月 2 日(土)



▽植栽木の刈出しの様子

「オホーツクの森」で、森林ボランティア「オホーツクの会」と当センターの共催、オホーツクの森「自然再生モデル事業企画運営協議会」の後援で開催しました。

これは、これまで「自然再生モデル林」に植栽した広葉樹の手入れを通じて、その生長を確認するとともに「オホーツクの森」を散策し、自然再生モデル事業や森林の働きなどの理解を深めるために行っているものです。

当日は 7 名の参加があり、植栽木の場所がわかるように標示杭の設置や植栽木がササに覆われないように刈出しなどを行うとともに、午後からは平安遊歩道で森林散策を行いました。また、森林散策などのストレス解消効果を確かめるため、集合時と終了時に唾液中のアミラーゼ濃度を調査し比較したところ、参加者の半数以上のアミラーゼ濃度が低下し、本日の植栽木の手入れと森林散策が、ストレス解消につながったようです。

なお、植樹木は参加者の皆様の手入れにより、年々、生長しています。

道民森づくりネットワークの集い 9 月 10 日(日)

札幌市野幌森林公園（北海道開拓の村・自然ふれあい交流館）で、北海道、北海道森林管理局、道民森づくりネットワーク実行委員会の主催により「道民森づくりネットワークの集い 2017」開催され、当センターも参加しました。

この催しは、「森と楽しくふれあおう！」「森とつながろう！」をテーマとして、森林や木に関わる体験や遊びを来場者に提供し、「森林とふれあう」「森づくりに関心を持つ」



▽木エクラフト作成の様子

「森づくりに参加するきっかけづくりの場」として行われたもので、ボランティア団体、木材活用関連団体・企業、関係行政機関が出展しました。

当日は、好天に恵まれ約 2000 名の来場者があり、北海道森林管理局では、ガイドウォーク、カミネッコン（再生段ボールでできた苗木ポット）作り、パネル展示を行うとともに、当センターでは、酪農学園大学の学生ボランティアの協力を得て、マツボックリを使用したフクロウ作りと枝笛作りを行い、多くの親子連れで賑わいました。

ワッカ原生花園の環境整備

9 月 15 日（金）、北見市常呂町ワッカ原生花園国有林で、北見市常呂総合支所、網走中部森林管理署、ボランティア団体、当センター等から 30 名ほどが参加して、外来種であるイタチハギの駆除が行われました。

このイタチハギは、荒地の緑化などの目的で導入されたところですが、砂浜に自生する他の植物に悪影響を与えることから、タネを落とす前のこの時期に根際からの刈取りを行っているもので、根気よく駆除を続けていく必要があります。

オホーツクの会「秋の自然観察会」

10 月 1 日(日)



▽動物の糞の解説を聞く参加者

森林ボランティア「オホーツクの会」の「秋の森林散策会」が、「山彦の滝・鹿鳴の滝」で 36 名の参加により行われ、当センターから 2 名が参加し活動を支援しました。

「鹿鳴の滝」入口からは、大きな岩がゴロゴロ、加えて足を踏み入れる人も少ないと思われる散策路ということもあり、参加者の「ここは一人では来られない」などという

声も聞きながら、ゆっくりと歩くこと 30 分、「鹿鳴の滝」に到着しました。周辺には、コケやシダ類（クジャクシダ、ジュウモンジシダ他）が繁茂し、「まるでジブリの世界（もののけ姫？）」を思わせるようです。

次に、「山彦の滝」に向かって歩道を進むと、周囲の天然林は一抱え以上ある、トドマツ・エゾマツやシナノキ・ハリギリなどがたくさんありました。また、エゾシカの皮剥ぎやヒグマの爪痕、キツツキ類の食痕などが見られ、野生生物の営みを身近に感じながら、およそ 500m・・・水の音が聞こえてきました。「山彦の滝」に到着です。高さ 28m の瀑布に加え、「裏見の滝」とも呼ばれているように、滝の裏側から見るができます。参加者からは、こんな滝を身近に見ることができるなんて「すご〜い！」と歓声が上がり、マイナスイオンを全身で浴びました。赤く色づき始めたカエデ、甘い香りを漂わせるカツラの黄葉、ほんのり甘いフッキソウの白い実など、秋の森林とそこに生息する動物たちの営みを感じながらの散策会となりました。

ふれあいセンター等現地検討会

11 月 7・8 日(火・水)

道内 4 箇所のふれあいセンター、知床森林生態系保全センター、森林管理局の関係者が出席し、斜里町ウトロで「ふれあいセンター等事業現地検討会」が開催されました。

これは、各センターが取り組んでいる事業の情報交換とフィールド見学により知見を広め、また、各センターの課題等を検討して、今後の事業に活用することを目的として、平成 24 年度から各センターの持回りで行われているものです。

この二日間で、エゾシカ捕獲の囲いワナや知床世界遺産地域の施設を視察するとともに現地検討が行われ、また、各センターからは今年度の取り組みが報告され、課題や今後の方向性について、調査官と指導普及課長等を交えて意見交換が行われました。

日頃は目先の業務に追われ、同じような内容の行事となりがちですが、中・長期的な視点と目的の再確認が必要なことを実感しました。



▽現地検討の様子

常呂川森林ふれあい推進センター

http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/tokorogawa_fc/index.html

〒090-8588 北海道北見市北斗町 3 丁目 11 の 3

【TEL】0157-23-2960 【FAX】0157-26-2144

